

# 公共事業の景観創出が地域のまちづくりに及ぼす効果に関する研究

Research on the effects of public works projects on city planning and community development  
from the viewpoint of landscape

(研究期間 平成 22～24 年度)

環境研究部 緑化生態研究室  
Environment Department  
Landscape and Ecology Division

室長  
Head  
研究官  
Researcher

松江 正彦  
Masahiko MATSUE  
阿部 貴弘  
Takahiro ABE

In this study, the effects of public works on city planning and community development have been extracted from the thirteen cases, which affected the landscape of surrounding area. After that, the effects have been broken down into patterns in order to better understand. Based on such a classification of effects, the interrelationships between effects and the landscape creation methods which contribute to the manifestation of effects have been analyzed to clarify the effects manifestation process. And based on the results of such analysis, the guideline for use by field technologists implementing public works projects will be prepared.

## 〔研究目的及び経緯〕

国土交通省では、2003（平成 15）年の「美しい国づくり政策大綱」公表以降、事業分野別「景観形成ガイドライン」（2004（平成 16）年～）や「景観デザイン規範事例集」（2008（平成 20）年）、さらに「国土交通省所管公共事業における景観評価の基本方針（案）」（2004（平成 16）年、2007（平成 19）年に「国土交通省所管公共事業における景観検討の基本方針（案）」に改正）、「公共事業における景観整備に関する事後評価の手引き（案）」（2009（平成 21）年）（以下、「事後評価の手引き」）など、公共事業における景観整備に関わる施策を拡充してきた。

一方、地域においては、2004（平成 16）年に制定された「景観法」に基づき、地方公共団体が主体となった景観形成の取組みが進められており、さらに、景観法で用意された「景観重要公共施設制度」を活用し、公共施設とその周辺の建築物等が一体となった景観形成の取組みも進められている。また、社団法人土木学会は、2009（平成 21）年に「景観政策に関する提言 ～戦略的地域づくり推進のために～」を取りまとめ、戦略的な地域づくりの推進に向けて、公共事業と地域が連携した一貫性のある景観形成を要請している。このように、地域においては、地域の景観形成やまちづくりに効果を及ぼすことを意識した、公共事業の景観整備に対する要請が強まっているといえよう。

ところが、これまでの景観施策においては、公共事業の景観創出がまちづくりに及ぼす効果が、どのよう

な取組みやプロセスを経て発現するのか、十分な知見は蓄積されておらず、公共事業担当者が活用できる情報が整えられているとは言い難い。

こうした背景から、国土技術政策総合研究所では、主に公共事業の実務の現場の技術者に向けて、地域のまちづくりに効果を及ぼすことを意識した景観整備を進めるための知見や情報を取りまとめた『（仮称）美しい国づくりのためのみちしるべ』（以下、『みちしるべ』）を作成するため、公共事業の景観創出がまちづくりに及ぼす効果に関する研究を進めている。その際、i) 公共事業における景観整備が地域のまちづくりに及ぼす効果の類型化、ii) 効果の相互関係及び効果と景観整備手法との関係の分析・把握、iii) 効果の発現プロセスの分析・整理を行い、これらの研究成果を踏まえ、『みちしるべ』を取りまとめることとしている。

本論では、『みちしるべ』の作成に向けたこれら一連の研究の中間報告を行い、効果の発現を意識した景観整備の推進に資する知見を提示することを目的とする。

## 〔研究内容〕

本研究では、まず、事後評価の手引きを踏まえ、公共事業における景観創出事例 18 事例について事例調査を行い、事例ごとに景観創出効果及び景観創出の取組み手法等を把握・整理した。さらに、事例調査結果に基づき、公共事業における景観創出効果の類型化を行った。こうした類型化を踏まえ、効果と効果がどのような関係にあるのか、効果の相互関係を分析・把握

するとともに、効果と景観創出の取組み手法との関係を分析・把握した。

これらの研究成果を踏まえ、平成 24 年度に効果の発現プロセスを分析・整理し、そのうえで、主に公共事業の実務の現場の技術者に向けて、地域のまちづくりに効果を及ぼすことを意識した景観創出を進めるための知見や情報を取りまとめた『みちしるべ』を作成する。

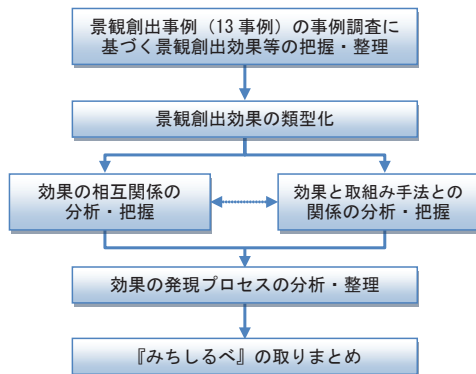


図-1 研究の全体フロー

## 【研究成果】

### 1. 事例調査

#### (1) 調査対象事例の選定

事例調査は、効果や取組み手法をより明確に把握することができるよう、土木学会景観デザイン賞をはじめとする受賞事例や、景観デザイン規範事例集などの文献・資料に掲載されている事例、さらに景観重要公共施設制度を活用している事例など、景観創出の取組みが行われ、周辺地域のまちづくりに効果が発現していると考えられる 18 の事例（表-1）を選定した。

#### (2) 調査方法

事例調査にあたっては、事前に文献・資料等の調査に基づき、事業及び景観創出の概要、想定される効果等を把握したうえで、基本的に「事後評価の手引き」の効果の考え方や調査手法を踏まえ、現地観測調査及び関係者ヒアリングを実施した。その際、特に公共事業における景観創出が地域のまちづくりにどのような効果を及ぼしたかに着目して効果を把握するとともに、景観創出の取組み手法についても幅広く把握するよう配慮した。

ヒアリングにあたっては、事前に事業者に関わらせるなどして、事業に主体的に携わり、事業や景観創出の内容を知悉する関係者を抽出し、ヒアリング対象者とした。

#### (3) 調査結果

事例調査結果は、景観創出の内容及び取組み手法、景観創出効果の発現状況を事例横断的に把握しやすいよう各事例共通の様式で取りまとめることとした。ま

ず、事例概要として、事業概要、事業経緯（年表形式）、組織体制、景観創出の内容等を整理し、さらに景観創出の取組み内容、把握した景観創出効果、効果の発現状況図、景観創出にあたっての課題等を整理した。

## 2. 景観創出効果の類型化

### (1) 効果の項目の抽出・整理

効果の類型化に先立ち、まず、事例調査に基づき把握した景観創出効果について、同様の内容を示す効果を集約し、表-2 に示す 31 の効果の項目を抽出・整理した。こうした整理を踏まえ、『みちしるべ』の作成を視野に入れ、景観創出効果の類型化を行う。

### (2) 効果の類型化

抽出・整理した効果について、「効果の種類」と「効果の範囲」の 2 つの軸に基づき類型化を行った（図-2）。2 つの軸に基づく効果の種類の考え方は、以下のとおりである。

#### (a) 効果の種類

効果の種類については、「人々の意識として発現する効果」、「人々の行動として発現する効果」、「組織・制度として発現する効果」、「空間・都市構造として発現する効果」、「経済として発現する効果」、「外部評価として発現する効果」の 6 つに分けて整理した。

#### (b) 効果の範囲

効果の範囲については、「当該事業において発現する効果」、「持続的なまちづくりに向けて当該事業が地域に及ぼす効果」の 2 つに分けて整理した。

「当該事業において発現する効果」は、対象とする公共事業においてその担当者が発現をめざすべき効果である。これらの効果の発現は、当該事業において創出される空間の質も含めた、当該事業の進め方に大きく影響される。しかし、逆に言えば、当該事業の進め方次第で効果の発現が期待できる、直接的で分かりやすい効果でもある。

「持続的なまちづくりに向けて当該事業が地域に及ぼす効果」は、対象とする公共事業においてめざす効果のひとつの到達点として位置付けることのできる効果である。ただし、公共事業と連携した地域の景観形成の全体像を考えた場合には、これらの効果は通過点としても位置付けることができる。

「持続的なまちづくりに向けて当該事業が地域に及ぼす効果」としてあげた景観創出効果（たとえば、景観形成推進のための体制の構築）は、地域の景観形成を持続・発展的に推進していくための非常に重要な効果である。しかし、構築された体制が有効に機能するためには、その仕組みをうまく活用するための相応の知恵や工夫が必要である。体制ができたことだけで満

足してはいけませんが、そのための知恵や工夫は、公共事業における景観創出とは異なる次元のものとして考えられる。そのため、ここでは、これらの効果を「持続的なまちづくりに向けて当該事業が地域に与える効果」として類型化する。

### 3. 景観創出効果の相互関係の分析・整理

効果の相互関係分析にあたっては、Dematel (Decision Making Trial and Evaluation Laboratory) 法、及び、ISM (Interpretive Structural Modeling) 法を併用した統計的分析を行った。Dematel 法及び ISM 法を併用する理由は、Dematel 法は要素間の関係の強度の把握に優れ、ISM 法は要素間の階層構造の把握に優れた分析方法であることから、両者の併用により、効果間の関係の強度と階層構造をあわせて把握することが可能であると考えたことによる。

さらに、これらの統計的分析結果を踏まえ、『みちしるべ』としての取りまとめを視野に入れ、分析結果を整理した。

『みちしるべ』としての取りまとめを視野に入れた場合、まず、それぞれの景観創出効果が独立的なものではなく、相互に関連しあっていることを読み手に正しく認識してもらうことが重要である。また、景観創出効果の相互関係は、時間軸に対応した関係として認識されやすいが、効果の相互関係にはスパイラルアップ的な関係もあるため、時間軸との対応で示さないほうが良い面もある。

そこで、景観創出効果の相互関係については、時間軸との対応イメージが強くなる発現プロセスとしての表現は避け、景観創出効果の相互関係図として表現することを基本とした。その上で、相互関係に係る効果の考え方として、「当該事業において発現する効果」は、良好な景観整備の成果に係る効果の関係と、事業の進め方に係る効果の関係の2つに大きく区分してとらえることができること、さらに、これらの効果の関係が総合的に作用し、ひとつの到達点である「持続的なまちづくりに向けて当該事業が地域に及ぼす効果」が発現することを相互関係図において表現することとした(図-3)。

### 4. 景観創出効果と取組み手法との関係の分析・整理

#### (1) 効果の発現に資する取組み手法の抽出

事例分析結果をもとに、効果の発現に資する17の取組み手法を抽出した(表-3)。

#### (2) 効果と取組み手法との関係の分析・整理

『みちしるべ』としての取りまとめを視野に入れると、取組み手法については、事業段階との対応で示されていることが有効である。しかし、取組み手法と事業段階との対応関係は、ある段階での取組み手法が他の段階では必要が無いといった誤解を生じないように配慮する必要があることから、固有の事業段階に限定的なものではないことに注意して表現する必要がある。そのため、取組み手法と発現効果との関係についてもその対応関係を示すことは有効と考えられるが、その場合にも、取組み手法と発現効果との関係が1対1的に限定的なものではないことに注意して表現する必要がある。また、取組み手法については、公共事業の実施にあたっての取組みのポイントとなる事項の全体像を把握したうえで、それぞれの事業担当者が自ら考え、それぞれの段階に相応しいと考える取組みを実施することができるよう、『みちしるべ』において表現する必要がある。

そこで、取組み手法については、まず、各取組み手法と事業段階との対応を示すこととした。また、その表現についても、事業段階との対応を星取表的に示し、取組み手法と事業段階との関係が限定的な関係であるとの誤解が生じないよう配慮した(表-4)。そのうえで、取組み手法と発現効果との関係についても星取表的に示すこととした(表-5)。

#### [成果の活用]

本論では、『みちしるべ』の作成に向けた一連の研究のうち、事例調査により抽出された景観創出効果の類型化と、類型化を踏まえた効果と効果の相互関係、さらに、効果と景観創出の取組み手法との関係について報告した。

今後、これらの研究成果を踏まえ、効果の発現プロセスを明らかにしたうえで、各分析結果を踏まえ、地域のまちづくりに効果を及ぼすことを意識した景観創出を進めるための知見や情報を取りまとめた『みちしるべ』を作成する。



表-1 調査対象事例の概要

| 記号 | 事業分野  | 景観創出事例名               | 所在地      | 竣工年                     | 写真   | 事業及び景観創出の概要   |
|----|-------|-----------------------|----------|-------------------------|--|---|
| イ  | 道路    | 夢京橋キャッスルロード           | 滋賀県彦根市   | 1999年3月                 |    | 【市事業】<br>城下町に相応しい街路整備(街路拡幅)と沿道建物修景                                    |
|    |       | 四番町スクエア               |          | 2007年3月                 |    | 【民間事業(土地区画整理組合)】<br>土地区画整理事業による、「大正ロマン」をコンセプトとした賑わい空間・交流施設の整備         |
| ロ  | 道路    | 馬堀海岸<br>(うみかぜの路)      | 神奈川県横須賀市 | 2006年10月                |    | 【国事業】<br>護岸(高潮対策事業)と国道(緑陰道路事業)の一体整備                                   |
| ハ  | 道路    | 青葉通・定禅寺通              | 宮城県仙台市   | 青葉通:1951年<br>定禅寺通:1957年 |    | 【市事業】<br>戦災復興事業を契機とした、継続的な街路整備(広幅員街路, ケヤキ並木, 景観形成地区指定等)               |
| ニ  | 橋梁    | 萬代橋                   | 新潟県新潟市   | 2004年10月                |    | 【国事業】<br>75周年記念事業(改修事業)の一環として環境整備を実施(橋梁本体, 橋詰を建設当時に近い形で復元)            |
| ホ  | 橋梁    | 大瀬橋                   | 宮崎県延岡市   | 2008年                   |   | 【市事業】<br>景観に配慮した橋梁整備(橋梁本体デザインの洗練, 橋上施設のデザインの高質化等)                     |
| ヘ  | 河川    | 水都大阪<br>(道頓堀川リバーウォーク) | 大阪府大阪市   | 2001年                   |  | 【市事業】<br>とんぼりリバーウォーク等の各種親水設備の整備等の河川環境整備                               |
| ト  | 河川    | 新町川                   | 徳島県徳島市   | 1997年7月                 |  | 【ボードウォーク:民間事業(商店街振興組合), 公園・護岸:市・県事業】<br>ボードウォーク整備, 河畔公園整備を中心とする河川環境整備 |
| チ  | 河川    | 遠賀川<br>(直方の水辺)        | 福岡県直方市   | 2006年7月                 |  | 【国事業】<br>市民参画による河川環境整備(緩傾斜護岸, プロムナード, カヌー乗り場等)                        |
| リ  | 公園・緑地 | 富岩運河環水公園              | 富山県富山市   | 1997年7月(部分共用開始)         |  | 【県事業】<br>自然と人が調和した親水公園整備(天門橋, 芝生広場, バードサンクチュアリ等)                      |
| ヌ  | 公園・緑地 | 首里城公園                 | 沖縄県那覇市   | 1992年(部分共用開始)           |  | 【県事業, 国事業】<br>地場材, 伝統工法を活用した首里城の復元整備                                  |
| ル  | 港湾・海岸 | 鹿児島港本港区               | 鹿児島県鹿児島市 | 2002年                   |  | 【県事業】<br>薩摩藩時代に築造された石積み防波堤の保存・再生と周辺環境・施設整備(フェリーターミナル, 水族館等)           |
| ヲ  | 港湾・海岸 | 鳥羽プロムナード              | 三重県鳥羽市   | 2005年                   |  | 【県事業】<br>市民参画による海辺のプロムナード整備   |
| ワ  | 交通・建物 | 鹿児島市電軌道敷緑化            | 鹿児島県鹿児島市 | 2007年(一部竣工)             |  | 【市事業】<br>緑化技術の開発による市電軌道の緑化整備  |

表-1 調査対象事例の概要（つづき）

| 記号 | 事業分野  | 景観創出事例名     | 所在地         | 竣工年            | 写真   | 事業及び景観創出の概要                                      |
|----|-------|-------------|-------------|----------------|--|--|
| カ  | 道路    | お城通り景観整備    | 兵庫県<br>赤穂市  | 2004年          |  | 【市事業】<br>街路拡幅を契機とした沿道街並み整備                       |
| ヨ  | 道路    | パークロード      | 山口県<br>山口市  | 1980年          |  | 【県事業】<br>沿道空間と一体となった広幅員の植樹帯および歩道空間を確保した道路整備      |
| タ  | 河川    | 子吉川癒しの川整備   | 秋田県<br>本荘市  | 2002年          |  | 【国事業】<br>地域の医療・福祉関係との連携に基づく癒しの空間としての河川整備         |
| レ  | 河川    | 和泉川ふるさとの川整備 | 神奈川県<br>横浜市 | 1996・<br>1997年 |  | 【市事業】<br>関連部局との連携等によって創出された沿川空間を一体的に捉えた川・まち空間の整備 |
| ソ  | 公園・緑地 | 西川緑道公園      | 岡山県<br>岡山市  | 1976年          |  | 【市事業】<br>沿川の車道縮小によって生み出された用水路沿いの緑道公園の整備          |

表-2 景観創出効果一覧

| 景観創出効果 |                               |
|--------|-------------------------------|
| 1      | 地域景観の向上                       |
| 2      | 景観と生活環境との密接な結びつきに関する住民の理解の深まり |
| 3      | 住民のまちづくりへの参画                  |
| 4      | 官民の間での役割分担の重要性の認知             |
| 5      | まちづくり団体(NPO, 協議会など)の発足        |
| 6      | 住民のまちづくりに対する参画意識の高まり          |
| 7      | 地域住民の利用の増加                    |
| 8      | 地域活動(イベント等)の増加                |
| 9      | まちづくりに対する官民それぞれの理解の深まり        |
| 10     | 街のブランド力の向上                    |
| 11     | 来訪者の増加                        |
| 12     | 商業・産業活動の活性化                   |
| 13     | まちの回遊性の向上(新たな動線の創出)           |
| 14     | マスコミ・マスメディア掲載の増加              |
| 15     | 外の目に対する住民の意識の萌芽               |
| 16     | デザイン賞など各種賞の受賞                 |
| 17     | 官民それぞれの景観形成の機運の高まり            |
| 18     | まちづくりの方向性・具体イメージの住民の共有        |
| 19     | 良好な景観の具体像に対する住民の理解の深まり        |
| 20     | 行政計画の拡充(景観計画など)               |
| 21     | 関係者間(行政機関, 地元組織)の連携促進         |
| 22     | 景観形成推進のための体制構築                |
| 23     | 景観整備の周辺への広がり                  |
| 24     | 景観創出事業の他地区, 他都市への展開           |
| 25     | 「まち」に対する住民の関心の高まり             |
| 26     | 都市構造の景観的顕在化                   |
| 27     | 地域シンボルの保全・創出                  |
| 28     | 地域資源(歴史・文化)の発掘・保全             |
| 29     | 伝統技術の復元・活用                    |
| 30     | 開発した技術の他事業への波及                |
| 31     | 地域の知恵を結集した新しい技術の開発            |

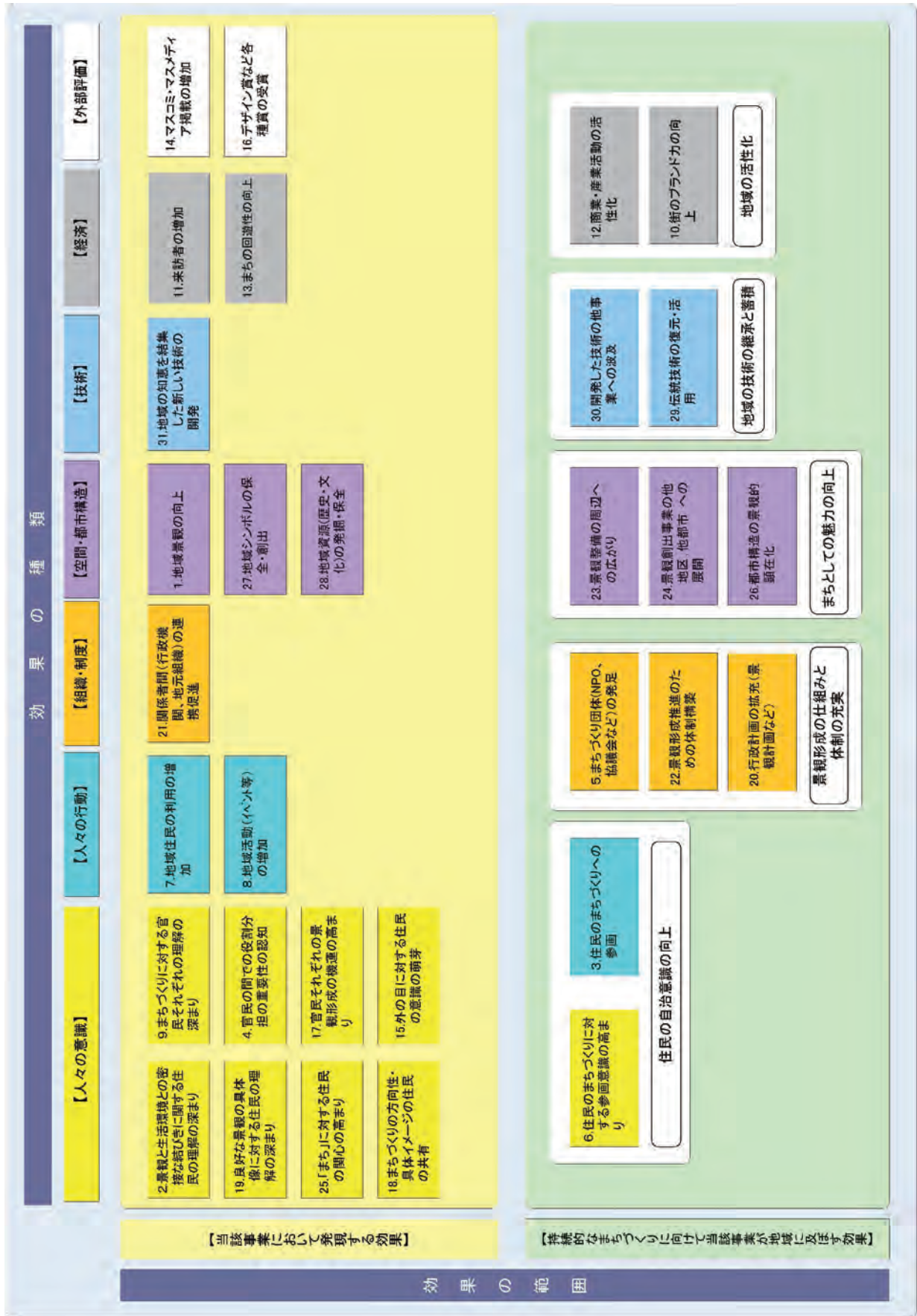


図-2 景観創出効果の類型化



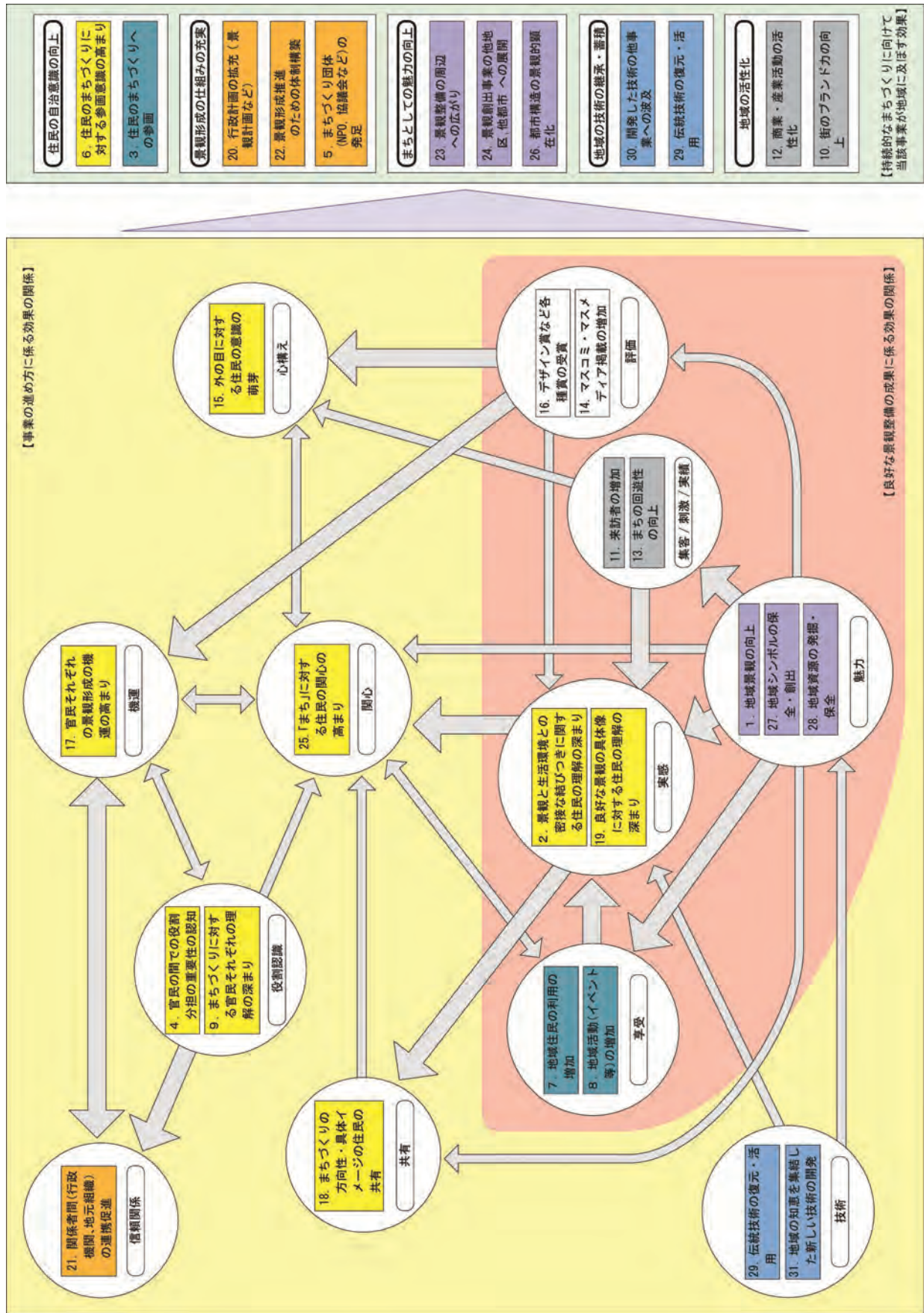


図-3 景観創出効果の相互関係図

表-3 効果の発現に資する取組み手法一覧

| 取組み手法               |  | 取組み手法の概要  |
|---------------------|--|---|
| 係りの深い【取組み手法】        | A  | 事業のまちづくりにおける意味を考える<br>● 地域の歴史・文化・自然や、地域社会の情勢、社会的要請等を考慮して事業実施にあたっての基本的方向性を検討・設定する。   |
|                     | B  | 事業の検討体制を整える<br>● 学識経験者等の委員会、事業関係者を含む協議会、地域住民を含む検討会・ワークショップを設置・開催する等、事業の検討体制を整える。<br>● 設計競技(コンペティション)やプロポーザル方式により、計画・設計者を選定する。 |
|                     | C  | 事業推進の全体シナリオを描く<br>● 構想、計画・設計、運営の各段階での検討体制・内容や調整事項等をあらかじめ検討する。   |
|                     | D  | 事業の位置づけを明確にする<br>● 事業の基本的な方向性や方針を行政等の計画に位置づける(明文化する)  |
| 事業の進め方に係りの深い【取組み手法】 | E  | 既成の枠組みを外して考える<br>● 行政の部署や組織の枠組みを越えて、他部署・他組織と連携して事業を実施する。(例:海岸事業と道路事業の一体整備、行政と民間の連携整備等)  |
|                     | F  | まちに対する関心を育む<br>● まちづくりや当該事業への関心を喚起するイベント(シンポジウム、フォーラム等)の開催や、地域住民の関心の高い方法での事業の実施、意識調査の実施等を行う。                                  |
|                     | G  | 整備された空間の活用方法を考える<br>● ハード面での整備内容に加えて、空間や施設の利用方法、管理方法をあらかじめ検討する。   |
|                     | H  | 整備・利活用にあたっての役割分担を考える<br>● 地域住民や地域団体・事業者といった事業主体以外の役割を含め、事業に係る役割分担を検討する。   |
|                     | I  | 整備範囲の中だけで考えない<br>● 周辺に位置する空間や施設との一体性や連携、調和に配慮した整備を考える。  |
|                     | J  | 専門家の知恵を加える<br>● 学識経験者や建築家、デザイナー、プランナー等の専門家をアドバイザー等にむかえる。  |
|                     | K  | 施設や空間をイメージしやすい方法で考える<br>● 先進事例視察の実施や、現地での検討会の開催、模型等によるデザイン検討等、分かりやすく、リアリティのある方法で整備内容や利活用方法等を検討する。                             |
|                     | L  | 整備のメリハリを考える<br>● 現地の空間的特性や社会的要請、住民ニーズ等を考慮し、重点的に整備すべき区間や箇所を検討する。   |
|                     | M  | 整備の「何故」を伝える<br>● 会議やワークショップ等を通じて、計画・設計の意図を住民等に分かりやすく伝える。  |
| N                   | 検討内容を広く周知する<br>● 広報誌・互版の発行や、アンケート調査等を通じて、検討内容を広く一般に周知する。 |   |
| 深い【取組み手法】           | O  | 完成した施設・空間を体験する機会を設ける<br>● 整備した施設や空間を地域内外に広くアピールすることを目的としたイベント(完成記念式典等)を開催するなど、事業実施によって完成した施設や空間を体験するきっかけの場、機会を設ける。            |
|                     | P  | 整備完了後の姿を確認し、知らせる<br>● 整備した施設や空間の利用状況調査や事後評価、各賞の受賞の広報等を行う。   |
|                     | Q  | 継続的に話し合う場を設ける<br>● 整備した施設や空間の運営や利活用、維持管理等について、関係者間で継続的に話し合う機会や組織を設ける。   |



表-4 取組み手法と事業段階との関係

| 効果発現のための取組みの手法                 | 事業の段階    |         |      |                    |
|--------------------------------|----------|---------|------|--------------------|
|                                | 事業の枠組み設定 | 計画・設計段階 | 施工段階 | 維持・管理段階<br>(事業完了後) |
| 取組み手法A<br>事業のまちづくりにおける意味を考える   | ●        | ●       | ●    |                    |
| 取組み手法B<br>事業の検討体制を整える          | ●        | ●       |      |                    |
| 取組み手法C<br>事業推進の全体シナリオを描く       | ●        | ●       |      |                    |
| 取組み手法D<br>事業の位置づけを明確にする        | ●        | ●       |      | ●                  |
| 取組み手法E<br>既成の枠組みを外して考える        | ●        | ●       |      |                    |
| 取組み手法F<br>まちに対する関心を育む          | ●        | ●       | ●    | ●                  |
| 取組み手法G<br>整備された空間の活用方法を考える     | ●        | ●       | ●    | ●                  |
| 取組み手法H<br>整備・利活用にあたっての役割分担を考える | ●        | ●       | ●    | ●                  |
| 取組み手法I<br>整備範囲の中だけで考えない        | ●        | ●       | ●    |                    |
| 取組み手法J<br>専門家の知恵を加える           | ●        | ●       | ●    | ●                  |
| 取組み手法K<br>施設や空間をイメージしやすい方法で考える |          | ●       | ●    |                    |
| 取組み手法L<br>整備のメリハリを考える          | ●        | ●       | ●    |                    |
| 取組み手法M<br>整備の「何故」を伝える          |          | ●       | ●    | ●                  |
| 取組み手法N<br>検討内容を広く周知する          |          | ●       | ●    | ●                  |
| 取組み手法O<br>完成した施設・空間を体験する機会を設ける |          |         | ●    | ●                  |
| 取組み手法P<br>整備完了後の姿を確認し、知らせる     |          |         | ●    | ●                  |
| 取組み手法Q<br>継続的に話し合う場を設ける        |          | ●       | ●    | ●                  |

表-5 取組み手法と発現効果との関係

| 取組み手法        |                        | 景観創出効果 |   |   |   |   |   |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |   |   |
|--------------|------------------------|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|---|---|---|
|              |                        | 1      | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |   |   |   |   |   |   |
| 「取組み手法の深い設定」 | A 事業のまちづくりにおける意識を考える   | ●      | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ● | ● |   |   |   |   |
|              | B 事業の検討体制を整える          | ●      | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ● | ● |   |   |   |   |
|              | C 事業推進の全体シナリオを描く       | ●      | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ● | ● |   |   |   |   |
|              | D 事業の位置づけを明確にする        | ●      | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ● | ● | ● |   |   |   |
|              | E 既存の枠組みを外して考える        | ●      | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ● | ● | ● |   |   |   |
| 「取組み手法の深い設定」 | F まちに対する関心を育む          | ●      | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ● | ● |   |   |   |   |
|              | G 整備された空間の活用方法を考える     | ●      | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ● | ● | ● |   |   |   |
|              | H 整備・利活用にあたっての役割分担を考える | ●      | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ● | ● | ● |   |   |   |
|              | I 整備範囲の中だけで考えない        | ●      | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ● | ● | ● | ● |   |   |
|              | J 専門家の知恵を加える           | ●      | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ● | ● | ● | ● | ● |   |
| 「取組み手法の深い設定」 | K 施設や空間をイメージしやすい方法で考える | ●      | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ● | ● | ● | ● | ● |   |
|              | L 整備のメリハリを考える          | ●      | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ● | ● | ● | ● | ● |   |
|              | M 整備の「何故」を伝える          | ●      | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
|              | N 検討内容を広く周知する          | ●      | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
|              | O 完成した施設・空間を体験する機会を設ける | ●      | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 「取組み手法の深い設定」 | P 整備完了後の姿を確認し、知らせる     | ●      | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
|              | Q 継続的に話し合う場を設ける        | ●      | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
|              | ●                      | ●      | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
|              | ●                      | ●      | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ● | ● | ● | ● | ● | ● |